

令和6年度事業計画書

(自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日)

特定非営利活動法人カシオペア医療介護支援センター

1 事業計画内容

特定非営利活動法人カシオペア医療介護支援センターの活動も令和6年度で3年目となり、在宅連携事業委託の実績について一定の目途が必要となっている。

令和5年度までの活動については、「カシオペアNET」(kintone)を活用した在宅医療・看護において、在宅患者の療養状況について医師、看護師及びケアマネージャー等の連携を図り情報連携において一定程度の成果を上げている。

また、カシオペア地域内における住民への啓発活動においても、一戸町及び軽米町主催の講演会に講師を派遣し、在宅医療の目指す方向や終末期の在り方について講演を行っている。

さらに、「カシオペアNET」(kintone)のさらなる普及を目指してシステム構築を計画しており、令和6年度以降については、地域内の福祉行政、医療機関、介護施設の実務者で構成する「カシオペアNET検討委員会」を設立し、より効率的な「カシオペアNET」の構築を目指す。

この「カシオペアNET」構築の基本は、住民の「生きる、想い」に寄り添い、地域包括支援センターが中心となった地域包括ケアシステムを造ることを目的とする。

あわせて、「カシオペアNET」の利用促進と地域内連携を強化し、当NPO法人の健全経営を進めるため会員登録を推進する。

まさに、厚生労働省がうたう2025年までの「地域包括ケアシステム」構築を目指すものとして活動を進めるものである。

自分たちの地域を自分たちの手で造り地域の住民が安心して暮らせる地域のためNPO法人カシオペア医療介護支援センターは、以下について活動を行っていく。

(1) 地域の医療・介護の資源の把握 (1,961千円)

地域内医療・介護情報共有ツールである「カシオペアNET」(kintone)上に、医療・介護連携に必要な連携窓口情報を掲載し、施設機能及び連携担当者の随時更新、地域内施設等の増減状況を反映させる。とくに施設入所時に必要な介護施設の入所要件や空き状況を長期入所施設のみならず短期入所施設での検索も可能とし利便性のあるものとする。併せて入所待機者状況を随時更新・閲覧できるようにすることで各医療機関及び地域包括支援センターにおいての入所希望者への案内がより正確性のあるものにすることができる。

窓口情報の更新には定期的な施設等へのヒアリングを行うとともに、「カシオペアNET」参加施設において担当者が直接入力を行うことで、リアルタイムな情報発信が可能となり、より正確でスピーディーな入所につながることで入所希望者の利便性が向上する。

また、「カシオペアNET」の活用により、介護施設入所にかかる待機状況が集約できることから、地域内の施設入所待機情報について行政において把握が可能となる。

さらに、地域内において医療及び介護において、どのサービス形態が必要となっているかを掌握する目的として定期的な「カシオペアNET」を介した利用者アンケート、意見交換等を行い地域内医療・介護構想の発展にかかる寄与を目指す。

地域内資源の把握を行った内容を具現化するため、更新されていないカシオペア医療及び介護マップの見直しを行い、医療機関及び介護施設の案内について利便性を高める。併せて介護施設の入所要件等も把握することで住民への介護施設選定のツールとして活用できるよう内容を詰めていく。

・具体的活動

- ① 「カシオペアNET」の利便性の追及と構築。
- ② 定期的な施設等への窓口情報アンケート及びヒアリングの実施
- ③ 「カシオペアNET」参加施設の拡大促進とカシオペア機関・施設窓口情報の随時更新
- ④ 「カシオペアNET」の活用による施設入所待機情報の発信

- ⑤ 「カシオペア医療・介護マップ」の更新及び活用促進
- ⑥ 医療及び介護サービスにおける利用者アンケートの実施
- ⑦ 地域内医療・介護サービスの分析及び展望に向けた「カシオペアNET検討委員会」を通じた検討会議の開催。

(2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討（1, 153千円）

NPO法人が、「ひめはたるネット」のこれまで行ってきた医療と介護を結びつける活動を継承しながら地域内の医療・介護の連携状況を把握する活動を展開する。具体的には「カシオペアNET検討委員会」を通じて、地域内の医療及び介護サービスの実態を把握し改善策を模索していく。委員会の構成員は福祉行政担当者をはじめ、医療機関及び介護施設職員を入れ接点を増やすことで、より連携意識を高めていくこととする。

こうした「ひめはたるネット」を継承する活動が連携強化につながるものとする。

また、集約した改善策を「カシオペアNET」のシステム仕様に盛り込むことにより、より地域内の情報共有が効率的となり医療及び介護サービスの標準化に寄与する。

そのことにより、より安寧な地域内在宅サービス提供につながっていくものとなる。

・具体的活動

- ① 「カシオペアNET検討委員会」を通じた委員会活動の発展支援
- ② 訪問診療・看護及び福祉行政を交えたカンファレンスの実施と課題の検討

(3) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築の推進（4, 329千円）

在宅医療においては、訪問医療体制が最も必要である。カシオペア地域内においては在宅診療専門の医療機関は無く、訪問看護ステーションも2か所に留まっており住民のニーズには応えきれないのが実情である。

こうした医療資源不足を打開するためには人材の確保が重要だが、現状、人材確保は厳しい。在宅医療を進めるうえで在宅での患者・利用者の療養状況をリアルタイムに医師に発信することは医師不足の観点から非常に重要な位置を占める。この難点を「カシオペアNET」を活用し訪問看護師が患者の症状情報を入力し医師に伝達のうえ、即時に指示を仰ぐ遠隔診療が「カシオペアNET」を通じて現実に行うことができおり、救急を伴う場合に即座に医師から救急病院への対応を指示受けができている事例は大きな利点としてあげることができる。

また、「カシオペアNET」(kintone)を令和6年度から順次構築を図り、介護施設の入所申込みにおける利用者の利便を図る。これは、利用者本人・家族がNPO法人のホームページ上から直接「利用者登録」を行い、住民・家族の「状態」、「思い」や「生活実態」を入力し「カシオペアNET」に反映する入力仕様を追加する。このことで、利用者の利便性を図るほか、医療機関、地域包括支援センター、介護施設及びケアマネージャーの業務軽減にもつながるものとなる。

こうしたICT活用の拡大により、より切れ目のない療養環境を目指すことは地域住民の安心した医療・介護を受けられる地域づくりにつながるものとする。

・具体的活動

- ① 訪問診療・看護カンファレンスの支援及び行政を交えた在宅医療・介護の実態評価の実施及び改善策の模索
- ② 「カシオペアNET」の構築にかかる説明会・研修会の実施
- ③ 住民が「利用者登録」（個人情報取扱承認書）を直接行う仕様とした、見やすく操作の簡易なNPO法人ホームページの作成
- ④ 医師会、看護協会及び行政を交えた訪問看護師による看取り制度の導入による医師の業務軽減を推進するルールの検討・作成

(4) 在宅医療・介護連携に関する相談支援（675千円）

「ひめぼたるネット」で培ってきた医療と介護との連携は、両者の繋がりができてはいるものの、未だカシオペア地域内においては地域ごとに資源的な差があることは否めない。とくに医師不足や訪問看護ステーションの不足など医療資源の乏しさによる在宅医療サービスの資源格差は顕著である。

こうした現状を踏まえ地域内格差を改善するためにも県立病院を中心とした開業クリニックや訪問看護ステーションにおける医療と介護施設との連携の充実が住民の医療・介護サービスに不可欠である。

地域での医療及び介護を充実させるためには医療と介護との垣根を解き放つことが必要であり、こうした現状において互いを理解して住民サービスのために手を取り合って改善していくことを重点に据え、地域資源分析とサービス提供体制改善の模索のため医療及び介護従事者への支援を行っていくこととする。地域毎に連携支援を行いカシオペア地域内での格差軽減を目指し医療及び介護施設への働きかけと併せ行政との調整を図っていく活動を進める。

とくに、地域を統括する地域包括支援センターの中心的役割は大きく地域内の状況を把握するべく地域包括支援センターでの情報取得は重要であることから「カシオペアNET」を通じた情報取得方法を追求する。

患者・住民、家族からの「状態」、「想い」及び「相談」を本人が直接入力できるシステムにより地域包括支援センターをはじめとして医療機関及び介護施設が情報を共有できることにより、患者・住民ひとり一人の「想い」に寄り添えるものとなる。

・具体的活動

- ① カシオペア地域内の標準化に向けた、医療及び介護連携の地域格差の是正にかかるヒアリングと相談支援（福祉行政との調整）
- ② 「カシオペアNET」の利用拡大による地域包括支援センターを中心に据えた相談支援情報の共有と支援。

(5) 地域住民への普及啓発（792千円）

令和5年度、地域内に定着していた「カシオペアフォーラム」を「カシオペアNETフォーラム」に改称した。このフォーラムでテーマとして続けていた「本人意思を尊重した医療・介護サービスの提供」について継続して住民啓発を行う。

また、日々発展するエビデンスに基づく医療・介護の提供について、医療・介護従事者の研修と併せ住民にも提供する形で講演会（シンポジウム）を開催していく。

また、NPO法人が行うICTを活用した患者・利用者の方々の情報共有により安心した医療・介護サービスにつなげる活動の認知度をあげるため、各地域で行っている地域懇談会などの小規模な集会に健康教室等で共同参画するなど、住民の健康意識啓発とNPO活動の認知度向上につなげていく。

また、各自治体で行う研修会等に講師を派遣し、住民への医療及び介護に対する意識高揚につながる活動を継続する。

・具体的活動

- ① 定期的な「カシオペアNETフォーラム」の開催
- ② 各市町村との連携で地域懇談会への出席と健康維持にかかる講師派遣及びNPO事業の説明実施
- ③ 「カシオペアNET」利用者促進に向けたチラシ作成及び配布促進

(6) 医療・介護関係者の情報共有の支援（1, 348千円）

「カシオペアNET」の構築により「情報共有ツール」をさらに発展させ、より利便性の高い情報共有を可能とする。医療及び介護従事者が必要とする情報を簡便に取得できることで、安心した医療・介護サービスの提供につなげる支援を行う。また、地域内連携クリティカルパスの活用やACP等本人意思確認情報も共有することが可能であり、地域内において終末期医療等、本人意思を尊重した医療推進にもつなげていく。

・具体的活動

- ① 「カシオペアNET」の利便性にかかる宣伝活動の徹底で住民への認識度向上と利用者拡大
- ② 「カシオペアNET」の連携共有支援に有義度が高いアプリの開発促進
- ③ 「カシオペアNET」活用に伴う本人同意の確認による個人情報保護法制の遵守
- ④ 患者本人意思の尊重とICTを活用した本人意思の共有アプリの開発

(7) 知識習得等のための研修（1, 482千円）

(5) で記述したように医療・介護従事者に対して、「カシオペアNET検討委員会」からの提案に伴い、都度つどの講演会を開催し学習支援を行う。

併せて、地域毎の地域懇談会等と共催し、血圧測定や糖尿病教室など住民に生活習慣病に対する意識付けを行うことで、医療従事者及び介護従事者の地域内医療・介護サービスの知識習得につなげる支援を行う。

また、職種別専門部会活動を通じて専門分野の知識習得につなげる研修会を開催する。

さらに、こうした講演会や研修会の開催に通じ、医療、介護及び福祉行政にかかる新採用者等が地域内医療・介護の実態を学習する機会として積極的な参加について支援する。部会で開催するワーキングにも積極的に参加してもらうことで、さらに学習の機会が拡大するものとする。そのためにもNPO法人においては参加案内を徹底して行うほか、各機関及び施設においては担当者等の参加を積極的に促すよう求めていく。

なお、「カシオペアNET」の操作研修は随時アプリの開発と併せて実施することとする。

・具体的活動

- ① 「カシオペアNET検討委員会」と連携した職種毎及び多職種の従事者研修の実施
- ② 医療、介護及び福祉行政にかかる新採用ならびに採用後初期における医療・介護・福祉連携にかかる研修会の開催
- ③ 地域の医療及び介護の見識を深めることを目的とした福祉行政職員のNPO法人の実務研修の開催模索
- ④ 「カシオペアNET」アプリの操作研修会の随時開催

(8) その他

当NPO法人活動の広がりのためには、賛同団体及び個人の拡大が重要である。地域内連携を強化し、当NPO法人の健全経営を進めるため会員登録を推進する。

そのためにも、「カシオペアNET」構築を早期に進め、「カシオペアNET」の利用拡大とあわせて当NPO法人の認知度を高め、地域福祉行政・医療・介護の拠点としての位置づけとして活動を展開していくこととする。

2 事務局体制

令和6年度の事務局体制については、常勤事務職員2名、理事兼嘱託事務職員1名及び嘱託事務職員1名の体制を基本として運営していくこととする。